

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：法と政治

部会長名：中村覚

作成者名：中村覚

概要（2000 字）

当教育部会の授業科目は、主に法学に関連する「法の世界」と「社会生活と法」と「国家と法」、および主に政治学に関連する「政治の世界」と「現代社会と政治」から構成されている。

昨年度、法学に関連する講義では、法の基本原則、憲法規範、民法や刑法、裁判制度などの基本となる項目が網羅された。また法が現代世界で果たしている役割の具体的な事例として、誰でも遭遇しうる法律問題や医療問題がとりあげられた。さらに国際法の成立過程や特徴、問題点が講義された。政治学に関連する授業では、ホッブス、ロック、ルソー、丸山真男などの政治思想、日本型の国内政治や外交政策、また国際関係の基本的枠組みや国連、開発問題などについて分担して講義された。また政治学に関連する事例としては、グローバル時代の諸問題に配慮しつつ、アメリカ、EU、アジア、中東、世界の各地域の国際政治まで幅広く取り扱った。当教育部会としては、各教員の専門分野である法学、国際法、政治思想、比較政治、国際関係論の最新研究の成果を反映しつつ、当部会の教育目的に適った授業を開講したと考えている。

授業形態は、当教育部会の目的に適する形態として講義を中心としているが、裁判の傍聴を課題にしたり、視聴覚教材を活用した教員がいる。また多くの教員は、大教室での講義という教育環境を配慮して、授業の際に学生から質問を集めて、授業時間の中で答えたり、回答を返却するなどの方法で、学生と教員の間に対話や討論が成立するように工夫が行われた。

自主学習への配慮や基礎学力不足の学生への配慮としては、板書に頼らずにプリントを教員が準備する努力が多く見られた。また予習箇所を指示したり、学期の途中に複数回のレポートを貸して学生を手助けする試みがあった。また授業の際に質問を集めて回答するなど、講義でわからない点があった学生に理解を促進するための配慮がされていた。しかし、教育部会としての明確な取り組みとしては、個々の教員の努力に任せがちであり、組織的な周知はやや不足していた感がある。

教育の成果や効果は、学生授業評価の結果からは一概に判定できないと考えるが、開講授業の多くでは 4.0 を超えていた。また各教員は、授業の様子から判断しつつ、日常の授業で話し方や説明の仕方に工夫を凝らしているが、期末試験で持ち込みを可能とするなどの方法で、学生のレベルに配慮しつつ、単位の実質化が図られたと判断している。

学生に対する学習相談や助言としては、各教員はオフィスアワーをもうけており、学生からの質問や、出席と履修に関わる連絡を受け付けている。また授業の際には、教員の側から学生に対して質問や感想を尋ねる働きかけを行っている。

以上の点により、総合的には、当教育部会は、教育目標を達成し、単位を実質化するための取り組みや創意工夫が十分に行われたと言えよう。とはいえ、一部教員のシラバスでは、教員の連絡先が電子シラバスに明示されなかったケースが見られたので、改善を図りたい。単位の実質化に関しては、学生の資質や姿勢の問題が大いに関わっているが、教養授業の特徴として、学生は本来専門としている分野とは異なる分野の授業を履修している者が常に大半である点を改めて念頭に置き、学生の授業態度の改善や積極化を促すことも教員側の課題であると意識して今後も授業の改善を図るよう、部会全体として努めたい。

## 様式 2 (続き)

### 項目・観点ごとの記述

#### 基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況) 法の基本原則や法が現代世界で果たしている役割、日本の国内政治や外交、国際関係の基本的枠組みなどについて担当各教員が分担して開講している。また事例としてとりあげたものは、誰でも遭遇しうる法律問題から、世界の各地域の国際政治まで、幅広く取り扱っており、当教育部会の教育目的に適った授業を開講した。

根拠資料 各教員のシラバス(テーマと目標)

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況) 各教員の専門分野である法学、国際法、政治思想、比較政治、国際関係論の最新研究の成果が反映されている。

根拠資料 各教員のシラバス(テーマと目標)

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況) 予習箇所を指示したり、期末試験の前にレポートを提出させた。また試験に持ち込みを許可するなどの方法で、必要に応じて各教員は、難易度に関して配慮した。

根拠資料 各教員のシラバス(成績評価基準と方法)、毎回の授業での指示、レポートの書き方を指示したプリント、学生が提出したレポート、期末試験の際の指示。

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況) 当教育部会の目的の性質として講義を中心としているが、裁判の傍聴を課題にしたり、視聴覚教材を活用した教員がいる。また授業の際に質問を集めて答える対話の手法を取り入れるなどの工夫が行われた。

根拠資料 各教員が授業時間に配布したプリント、学生が提出したレポート、使用された視聴覚教材。学生が提出した質問。

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況) 多くの教員は、学生にプリントを配布した。また予習箇所を指示したり、また授業の際に質問を集めて回答するなど、講義でわからない点があった学生にも理解を促進するように配慮された。

根拠資料 毎回の授業での指示、配布したプリント、学生が提出した質問。

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況) 学期末試験で持ち込みを認める配慮が一部の授業で行われた。また学期内での複数回のレポートを課すことによって学生の期末試験の負担を軽減して、日常の取り組みを促した授業もあった。また多くの授業では、学生の出席をとったり、学生の側から教員に対する質問の提出などを促す方法を適宜組み合わせながら、実施されている。

根拠資料 学期末試験やレポートの評価、出席簿、学生が提出した質問カード。

## 基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況) 学生授業評価の結果からは一概に判定できないと考えるが、開講授業の多くでは4.0を超えていた。

根拠資料 学生授業評価の結果

## 基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況) 各教員はオフィスアワーをもうけており、学生からの質問や、出席と履修に関わる連絡を受け付けている。また授業の際には、教員の側から学生に対して質問や感想を尋ねる働きかけを行っている。

根拠資料 各教員のシラバス。